

《モルックの歴史》

モルックはフィンランド生まれ

モルックはフィンランドで1996年に誕生したスポーツです。

開発したのは、Tactic Games（タクティック・ゲームズ）という玩具メーカーで、子どもから高齢者まで誰でも楽しめる屋外ゲームとして発売されました。

元になったゲーム

モルックのルーツは、フィンランドに古くから伝わる伝統的なゲーム、キイッカ（Kyykkä）です。

キイッカは木製の駒を投げて倒す競技ですが、ルールが少し難しく、力も必要でした。

そこで、

- ・ ルールを簡単にする
- ・ 年齢や体力に関係なく遊べる
- ・ 家族や友人と気軽に楽しめる

ことを目的に作られたのがモルックです。

名前の由来

「モルック（Mölkky）」とは、木の棒（投げる棒）の名前です。

ゲームではこの木の棒を投げて、番号が書かれた12本のピン（スキットル）を倒します。

世界へ広がる

2000年代になるとヨーロッパを中心に人気が広がり、現在では世界各国で大会が開かれています。

《モルックの歴史》

日本での広がり

日本にも2010年代から広まり始め、誰でも楽しめるスポーツとして人気が高まりました。特にテレビ番組やお笑い芸人の愛好者が紹介したこともあり、一気に知名度が上がりました。

日本では、日本モルック協会が普及活動を行っています。

現在では、

- ・ 学校のレクリエーション
- ・ 自治会・町内会のイベント
- ・ 高齢者の健康づくり
- ・ 企業の交流会
- ・ 全国大会・地域大会

など、さまざまな場面で親しまれています。

モルックが人気の理由

モルックは見た目は簡単そうですが、

- ・ 狙ったピンを正確に倒す技術
- ・ 50点ちょうどを目指す戦略
- ・ チームでの作戦

が重要で、「運」と「実力」のバランスが絶妙なスポーツです。

また、激しい運動ではないため、小学生から高齢者まで一緒に楽しめることが世界中で人気を集めている大きな理由です。